

## 神のことば: 尽きることのない源 パート2

前の学びで、神のことばを信じる私たちに、神がもたらしてくださる様々な効果についてお話ししました。その中で、互いに関連する2つを簡単に振り返り、それらを用いて例を示しましょう。まず、信仰は神のことばを聞くことによるということです。それは素晴らしい真理で、決して強調しすぎることはありません。もし、あなたに信仰がないなら、必ずしも信仰がないままではあります。なぜなら、信仰は来るものであり、それは、神のことばを聞くことによるからです。

そして、前の学びの最後に、神のことばがどのように私たちの全身に健康や薬を与えるために意図されているかを説明しました。私は自分の経験から簡単に説明しました。そこで見た聖句は箴言4章で、聞くことが何であるかを完璧に表わしている箇所でした。今少しそれを振り返りたいと思います。ですから、あなたが神のことばを聞くことはどうということかと疑問に思ったら、箴言4章からの私の個人的な経験に基づいて説明できると思います。私は入院中、その聖句に出会い、そのみことばは私に健康と薬を提供しているのだと理解し、私がすべきことであると自分に言い聞かせました。医者たちの治療には感謝しますが、いやされなかったのも、私は、神のことばを薬として飲むことにしたのです。私がそう言い聞かせたとき、実際に聞こえる声ではありませんでしたが、神はとても明確に語ってくれたと感じました。また神は、医者が薬を処方するとき、服用方法を指示することを私に言いました。神はこれが私の飲むべき薬の瓶で、それに書かれている指示を読むようにと言われました。そこで、その瓶をひっくり返してみると、神のことばを薬として服用する4つの指示がありました。ご存知のように、通常、医者は薬を処方するとき、飲み方を守らないなら、症状は良くなるまいと言うでしょう。ですから、神のことばを薬として服用する4つの指示を与えましょう。みなさんは、おそらく人生の中で一度は、これらの指示が必要になると思います。長い人生の中で、まったく病気にかからない人はほとんどいません。ですから、これらを覚えておいて、そのような状況になったときに準備ができているようにしましょう。4つの指示です。

1. 神のことばに注意を向ける
2. 神が言っていることに耳を傾ける
3. あなたの目をみことばから離さない
4. あなたの心の真ん中にみことばを保つ

これら4つの指示に何に関連しているかを簡単に考えてみましょう。第一に、注意を向ける、です。聖書を開くとき、あなたの完全に集中した注意を向ける必要があります。気が散らされないように、すべての他の声や影響、印象を締め出すようにしてください。神のことばに集中してください。そもそも、神はあなたに語っているのであって、神が言われることを聞くことに価値があるのです。

2つ目の指示は、あなたの耳を傾ける、です。それは、謙遜の態度です。私はこれを考えるとき、アフリカのことを思い出します。アフリカの小学校や中学校では、生徒は練習帳を持って先生の所へ来る時、先生の前に立って、その練習帳を開いて頭を下げ、耳を傾けます。つまり、その生徒は先生と生徒の関係、立場を理解しているということです。お分かりですか。耳を傾けるという態度は、私は教えていただきたい、教えてほしいと願う、私は学ぶ必要があるという態度です。

私自身、この問題がありました。なぜなら、以前の私のキリスト教に対する印象は、もしクリスチャンになったら、人生の大半がかなりみじめになってしまうというものだったからです。私の態度は、そのためにみじめになる価値があるとは思えないというものでした。そして、私は生まれ変わったあとでさえ、この態度を持ち続けていました。そして、聖書を学んだとき、神はいつも私が健康で、丈夫であることを望んでいる、私の成功を望んでおられると言っているように感じました。私は、それは話がうますぎる、聖書はそう言っているのではないに違いないと、自分に言い続けました。別の意味があるに違いない。そして、主が私に聞こえない声で語ったことをもう一度思いめぐらしている間、神は今、誰が先生で、誰が生徒かと質問されました。私は、「主よ、あなたが先生で、私が生徒です。」と言いました。すると、神は、あなたに教えてもいいかと言われました。そのようにして、私は自分が耳を傾けていなかったことに気づいたのです。私は、聞く態度ができていませんでした。神が語ることはこうだろうという、自分の先入観を持っていました。そして、神が別のことを言ったなら、私は聞くことができないと。

さて、クリスチャンの背景がない人たちには、そのような問題はないかもしれません。その人は、多くの面で利点から始まっており、開かれた心で始まります。しかし、ここにいる私たちのように、何らかのクリスチャンの背景がある人たちは、おそらく、聖書に一致しない、かなり多くの伝統や先入観を受け継いでいます。そして、神はこう言うだろうと思いついて入っていることと異なることを神が言われるので、神が何と言っているかを聞くことがしばしば非常に難しいのです。ですから、その解決法は、耳を傾け、頭を垂れて、謙遜になり、教えられやすくなることです。

私は様々な状況で教師をしてきました。教えられたくない人は、教えることは不可能です。あなたは、すべての動作ができ、すべての講義を切り抜けることができますが、結果が伴います。ですから、教えられたいという願い、教える聞く態度でいなければなりません。

3つ目の指示は、みことばをあなたの目から離してはいけないということです。神のことばにフォーカスするという意味です。部分的に聖書を見て、部分的に他の物を見てはいけません。なぜなら、他のものは聖書が言っていることに矛盾しているかもしれないからです。つまり、聖書がすべてで、神が聖書を通して語っていることすべてにあなたを閉じ込めなさいという意味です。気が散らされないように、神が語っておられることからあなたを引き離す、いかなるものにも影響されないようにしてください。

みなさんの中に教師の方もいると思いますが、私たちが以前小学校で教えており、教育という職業において、子どもたちの注意を引く2つの主な門があります。耳の門と目の門です。そして、良い教えは両方を用います。それが、ビデオが音声よりもさらに効果的である理由です。なぜなら、ビデオは耳の門だけでなく、目の門も使うからです。お分かりのように、神は教育心理学者より約3000年も先端を行って行っていました。なぜなら、神が耳の門と目の門のことを語っているからです。

そして、その結果、あなたの心の真ん中でみことばがあなたのものとなるのです。これらのすべての指示の目的は、神のことばをあなたの心の中に、人間の人格のまさに中心に入れることです。

箴言4章の次の節、23節はこう言っています。

「力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。」

つまり、あなたの心にあるものが、あなたの人生の行く末を決定するということです、ですから、あなたの心を見守ってください。

一人のアフリカ人学生の言語では、「力の限りあなたの心を見守れ。人生のすべてがそれから来る。」と言うそうです。それは誇張ではありません。みなさん一人ひとりの、心にあるものが、最終的にあなたの人生の歩みを決定するのです。心に間違ったものを持っていながら、正しく生きることはできません。また、心に正しいものを持っていながら、間違った生き方はできません。なぜなら、心は私たちが導くすべてのいのちの源だからです。これらの指示の目的は、どのように神のことばを耳の門、目の門、フォーカスされた注意力、謙遜、教えを聞く態度を通してあなたの心の中に取り込むことができるかを示すことです。

そして、すべての指示を守るとき、それが、聞いているということです。それこそ、信仰がくる方法です。あなたの取り扱っているものが病気であれ、他の問題であれ、あなたに信仰が必要なら、箴言 4 章のこの箇所は、あなたが信仰を得る方法を述べているのです。

では、非常に簡単にですが、神のことばの他の効果に移りましょう。次の効果は、罪に対する勝利です。詩篇 119:11 でダビデは主に言っています。

「あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。」

ダビデは、「あなたのことば」を自分の存在の真ん中である、心に宝としてたくわえましたと言っています。あなたは、どれほど心が重要かに改めて気づいていらっしゃるでしょうか。あなたが心に神のことばを蓄えたなら、それはあなたの人生の歩みを方向付けるのです。そして、ダビデは、「私は罪を犯したくない、罪に対する私の守りは、心にあなたのことばを蓄えることだ。」と言っています。

ある人が言いました。罪があなたを聖書から遠ざけるか、聖書が罪からあなたを遠ざけるかのどちらかであると。遅かれ早かれ、どちらかが勝つのです。聖書が勝利すれば、あなたは罪から遠ざけられるでしょう。

詩篇 17:4 に、ダビデのもう一つのあかしが見られます。ダビデは、非常に正直な人でした。彼の詩を読むと、その人生に多くの苦悩があったことが分かります。しかし、その苦悩を通して、ダビデが私たちに方向性と助けを与えることができていることを神に感謝します。詩篇 17:4 です。

「人としての行いについては、あなたのくちびるのことばによりました。私は無法な者の道を避けました。」

無法な者とは、サタンの肩書です。サタンは、破滅に導きたいので、あなたをそそのかす道を持っています。そして、その道のいくつかには、非常に紛らわしい標識があります。それには、成功、幸福、評判と書いてあります。そして、あなたは、その道をたどろうと考えます。しかし、それは、書かれているものへ続く道ではありません。なぜなら、悪魔がそこにその標識を立てたからです。そして、あなたを迷わせ、破滅へもたらすそのような道をたどらないようにするた

めに、あなたは神のことばを心に留めなければなりません。神のことばは、あなたに警告し、警報を出し、あなたに道を教え、罠と危険を示してくださるものです。

詩篇 119 に少し戻ってみると、その 2 節前の 9 節で作者はこう言っています。

「どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。あなたのことばに従ってそれを守ることです。」

それは、若い人々にとって現実的な問題です。若い人たちだけではなく、特に人生における特定の年齢の人たちにとっての問題です、再び私がアフリカにいたときのことですが、基本的にアフリカ人の態度は、若い男女はきよい生活を送ることは不可能だというものです。しかし、それは不自然です。ですから、私たちは神のことばをもって、それと戦わなければなりません。ダビデは、どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるかと問いました。それは、非常に現実的な疑問です。つまり、誰一人それがまったく簡単であると主張することはできませんが、ダビデは、あなたのことばに従って、それを守ることと言いました。もう一度言いますが、神のことばが罪からあなたを遠ざけるか、罪があなたを神のことばから遠ざけるかのどちらかです。もしあなたが、聖書にあまり興味を持っていないと気づいたら、あなたは人生において聖書をどのように位置づけしているのかをチェックしてみる方がいいでしょう。なぜなら、それは破滅を招きうるからです。

そして、聖書は、単に罪に対しての勝利を与えるだけではなく、サタンに対する勝利も与えます。それは、非常に、非常に重要です。サタンは、すべての信者の敵です。サタンは、絶えず私たちに反対し、私たちを迷わそうと誘惑の中へ引き込もうとします。しかし、サタンに勝たせてはいけません。私たちがサタンを倒します。私たちに、神のことばという武器があります。エペソ 6 章でパウロは、クリスチャンのほまれについて語っており、私たちすべてが現実の戦いではなく、霊的戦いの中にあることを指摘しています。私たちは血肉の戦いをしていてはありません。リビングバイブルでは、戦う相手は、血や肉を持った人間ではなく、目に見えない世界の支配者たちや、霊界にいる無数の悪霊どもだと言っています。それが霊的な戦いであるため、私たちは霊的な武器を持たなければなりません。そして、パウロは私たちの霊的武器をエペソ 6 章でリストアップしていますが、私は 17 節にある、最後の一つに焦点を当てたいと思います。こう言っています。

「救いのかぶとをかぶり・・・」

それは、あなたの頭を守るもので、私はそこに望みという言葉を入れたいと思います。I テサロニケ 5:8 は、望みをかぶととしてかぶって、と言っています。私はこれについて話すつもりはありませんでしたが、神が語るように言われていると思います。なぜなら、あまりにも多くの人々がうつの問題を抱えているからです。もし、ここにいる人で、うつや暗い気分、悲観的な問題で悩んでいる人はどれぐらいいるかと尋ねたとすると、多くの人が手を上げるでしょう。何よりも私です。私はミニストリーの初期、うつで相当に苦しみました。私は救われており、聖霊のバプテスマも受けており、死のために人々を勝ち取っていました。しかし、その暗い雲が私の上にとどまり、私を閉じ込め、押し沈めました。私はそれに苦しみ、それと戦い、知っていることすべてをやりましたが、何の効果もありませんでした。実際、試みれば見るほど、ひどくなりました。そして、私がたまたま、神が憂いの心の代わりに賛美の外套を与えてくださると言っている、預言者イザヤの書 61 章 3 節を読んだときの私は本当に絶望の状態でした。私がその言葉を読んだとき、聖霊は、それがあなたの問題だと言いました。その問題とは霊で、悪霊があなたを苦しめていると。それは、あなたではなく、あ

あなたの思いでもなく、別の人格があなたの思いの中に作用しているのだと。

では、もう一つだけ聖書の箇所を開きましょう。ヨエル 2:32 です。

「しかし、主の名を呼ぶ者はみな救われる。」

ですから、私は祈り、神に言いました。「神さま、この重苦しい悪霊から、うつから私を救ってください。イエスの御名によって。」そして、神は私を解放してくださいました。その後、神は、私の思いを守るものを持たなければならないことを示されました。私は武具について考え、それはかぶとに違いないと言いました。エペソ 6:17 ではそれを救いのかぶとと言っています。私は救われていると心の中で思っていました、救いのかぶとを持っているだろうか。パウロは、救われたクリスチャンに救いのかぶとを取るようになっています。私は、それがどういうことかわかりませんでした、それと並行している I テサロニケ 5:8 を見てみましょう。

「救いの望みをかぶととしてかぶって・・・」

私のかぶとは望みだと、自分に言い聞かせました。それこそ、私の思いを守るものです。そして、私は聖書を学び、望みは良い物への自信をもった期待だと理解しました。神は、私の考えのパターン全部を変えなければならないと示されました。私は本来悲観論者でした。実際、悲観論者として生まれることは別として、私は悲観論者であるように育てられました。私の家族では、もし、あなたが悩んでいないなら、悩みがないことについて悩むべきであるというものでした。ですから、私はその背景全体が変えられなければならないと気づきました。私は良い物を期待するという、望みのかぶとをかぶらなければならなかったのです。

私がとった方法は、落ち込むたびに否定的な考えを、意識的に肯定的な聖句に置き換えたのです。そして徐々にそれは自動的になっていました。ですから、現在、私はその問題がないことを神に感謝します。つまり、私たちはみな、時に否定的な思いに攻撃されるのですが、結局、うつは私の問題ではありません。それは過去のもので、私はうつから解放されなければならず、私の思いを守ることを学ばなければなりません。これをお話しつもりはありませんでしたが、おそらく、これを聞いていらっしゃる方々のためでしょう。かぶとがあります。それはのぞみです。あなたがクリスチャンとして聖書を学ぶなら、望みを持たない理由は何もありません。望みを持つ聖書的理由は常にありますが、あなたはそれを見つけて、適用しなければなりません。

次の声明に移りましょう。先ほどの続きです。

「また御霊の与える剣である、神のこばを受け取りなさい。」

それは、サタンへの攻撃の私たちの武器で、神のこばです。ギリシャ語では、こばを表わす 2 つの語があり、それについて多くの教えがあるので、おそらく聞いたことのある方もいらっしゃるでしょう。ロゴスとレイマです。ロゴスは、完全な神のこばで、神の助言全体、永遠の神、神のこばです。レイマは、神が語られるこばです。そして、ここで使われているのは、レイマです。神の語るこば、御霊の与える剣を受け取りなさい、です。言い換えれば、あなたの枕元や本棚にある聖書があなたを守るのではなく、あなたが信仰によって声に出し、宣言する聖書です。それが、御霊の剣であり、あなたが悪魔にそのようにする度に悪魔は引き下がるほど、鋭いのです。サタンは御霊の剣を恐れてい

ます。

そして、その完全な模範がイエスです。マタイ 4 章で、サタンがイエスを誘惑しに来たとき、イエスはどのように答えましたか。三度、イエスは何を言いましたか。それは書かれていると。それは何ですか。御霊の剣です。そして、サタンはイエスのことを去りました。サタンは御霊の剣への答えを持っていないのです。あらゆる種類の哲学的理由をサタンに言うことができますが、サタンは何も感じません。しかし、あなたがただ聖句を引用し、それを個人的に適用するとき、あなたはサタンを追い出すことができますのです。

ですから、御霊の剣、神のことばは、サタンに対する私たちの武器です。あと 2 つ聖句を見てみましょう。I ヨハネ 2:14 の後半部分で、ヨハネは言っています。

「若い者たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが強い者であり、神のみことばが、あなたがたのうちにとどまり、そして、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。」

悪い物とは、誰ですか。サタンです。ヨハネは、その若い者たちについて 3 つのことを言っています。あなたがたは、強い者であり、サタンに打ち勝った者であり、そしてその理由は、神のことばがあなたがたのうちにとどまっているからだ。もし、あなたのうちに神のことばがとどまっているなら、あなたには霊的な力と、サタンへの勝利が与えられるのです。

黙示録 12:11 で、その例を見ることができます。それは、終わりの時の、神の民とサタンの民の激しい衝突を描いていると私は信じます。それには、悪魔自身関わっています。しかし、11 節に勝利のカギが私たちに与えられています。

「兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しませんでした。」

どのようにサタンに打ち勝ちましたか。小羊の血と私たちのあかしのことばによってです。私がこれまでにこのことについて何千人もの人に説明してきた方法があります。この真理は値段がつけられないほど高価です。私たちはどのようにして、小羊の血とあかしのことばによってサタンに打ち勝つのでしょうか。これが私の説明です。イエスの血が私たちに何をしてくださったかを、神のことばは何と言っているかと、私たちが個人的に証するとき、私たちはサタンに勝利します。もう一度言います。イエスの血が私たちに何をしてくださったかを、神のことばは何と言っているかと、私たちが個人的に証するとき、私たちはサタンに勝利します。そのカギは、神のことばが言っていることを知ることです。そして、それを個人的なものとし、自分自身の人生に適用するのです。

妻と私には、これらのみことばを適用して普段用いているあかしの型があります。ですから、メッセージするよりも、その証を実際にやってみたいと思います。

「私のからだは、イエスの血によってあがなわれ、きよめられ、聖とされた、聖霊の宮です。私のからだの器官は、

神の働きと栄光のために神にささげた義の道具です。悪魔は、私の内に入るスキがなく、私に対する力もなく、私を惑わす非難も持っていません。すべてはイエスの血によって決着しました。私は小羊の血と私のあかしのことばによってサタンに打ち勝ち、私は死をも恐れませんが、私のからだは主のものであり、主は私のからだのもので。」

その一つ一つは、聖書から取っています。お分かりですか。

私たちはすべての祝福を持つべきです。ただ座って、そうなるようにただ願うだけでなく、実際に少しずつ区切ってそれを宣言する機会を満ちたいと思います。これは、あなたの告白です。あなたは、みんなが言うから言うのではなく、聖書がそう言っているのだから、言うのです。お分かりですか。あなたが聖書を信じるなら、これらのことばを信じているのです。ですから、私のあとについて区切りながら言ってください。あなたは、私に話すのではなく、目に見えない霊的な世界に語るものであり、それは、量りようもないほどあなたのことばが影響を与える領域があるのです。いいですか。あとについて言ってください。

「私のからだは、イエスの血によってあがなわれ、きよめられ、聖とされた、聖霊の宮です。私のからだの器官は、神の働きと栄光のために神にささげた義の道具です。悪魔は、私の内に入るスキがなく、私に対する力もなく、私を惑わす非難も持っていません。すべてはイエスの血によって決着しました。私は小羊の血と私のあかしのことばによってサタンに打ち勝ち、死をも恐れませんが、私のからだは主のものであり、主は私のからだのもので。」

もし、本当にそれを信じるなら、あなたは神に感謝してください。少し時間を取って神に感謝しましょう。それは、あなたの信仰の表明です。

(数秒待つてから)

さて、もう一つ言っておきたいと思います。ある特定のクリスチャンだけが、それを言うことができます。そのクリスチャンたちは、死をもいとわないということです。言い換えれば、彼らはまったく献身をしています。彼らにとって、何よりも重要なことは、生き続けることではなく、神のみこころを行なうことです。あなたは献身していますか。サタンは献身していないクリスチャンを恐れておらず、彼らをあざ笑います。しかし、献身したクリスチャンは、サタンを脅かします。なぜなら、サタンは彼らを打ち倒せないからです。

では、神のことばがサタンに対する武器として用いられている例を一つだけ挙げましょう。神のことばのもう一つの側面である、きよめ、あるいは洗い、聖とすることに移ります。様々な言葉が用いられています。聖くするというのは、聖とするという意味です。ですから、神のことばは、あなたを洗い、きよめ、聖くして下さいます。外側ではなく、内側をきよめて下さいます。

本当に汚いこと、暑くて、べたべたして、洗うことができないことは、どれほどひどいかご存知でしょう。あなたはそこで耐えなければならないのです。私は戦時下の軍で兵士として、そのような状況がよくありました。しかし、内側が汚くて、洗いができないとは、さらにどれほどひどいかと考えてみてください。私たちがどのように自分がきよめられるかを知っていることは、何という素晴らしい特権でしょう。今日、地上の何十億という人々がどのようにきよめられるかを知りません。私たちの特権はどれほどのものでしょう。エペソ 5:25-27 を読みましょう。パウロは、キリストとキリストの花嫁と呼ばれる教会との関係を、夫と妻の关系到照らしています。こう言っています。

「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。」

ここで、夫たちに自分の妻を愛しなさいと言っているのは、勧めではなく、命令です。ご存知かどうかわかりませんが、『自分ためにも、あなたの妻を愛しなさい』という本があります。実に、自分の妻を愛さないことは愚かであると、私もみなさんに言いたいです。

「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもち、教会をきよめて聖なるものとするためであり……」

それは、ロゴスではなく、語られたことば、レイマです。

「ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。」

それが、イエスがご自身の花嫁として迎える教会です。しかし、そのようになるために、教会は神のことばを教え、語り、読むことによって水の洗いをもち、きよめられ、聖なるものとされなければなりません。私は実に世界中の多くの集会で語ってきて発見したことは、今日、カルスマ派とペンテコステ派はどちらも、賛美と礼拝についてある考えを持っているということです。私たちが歌えるように導く素晴らしい賛美チームがあり、私たちは手をたたき、叫び、興奮します。それは素晴らしいことですが、定期的に神のことばを教える会衆に違いがあることに気づいたのです。彼らの礼拝には、きよさと聖があります。それはただ集って感情を表わすだけで、神のことばのきよめがない集会には見られないものです。真の純粋な礼拝を持つ唯一の道は、人々が定期的に神のことばによって洗われ、きよめられることです。それこそが、教会のミニストリーの本当の責任で、神の民が神のことばで定期的にきよめられるのを見ることです。

もちろん、私たちには一人ひとり、自分の個人的な責任もあり、私たちの心と思いと生き方を神のことばの前に差し出し、洗っていただき、きよめていただき、あらゆるがらくたと汚れ、私たちの霊的生活と成長を妨げるものを洗いながしてもらいます。それが、神のことばのもう一つの効果です。

そして、神のことばについてのもう一つの重要な側面は、鏡であるということです。ヤコブの手紙を開いてみましょう。1章23節でヤコブは言っています。

「みことばを聞いても行わない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のようです。」

神のことばは鏡であるという描写です。しかし、外見を映し出す通常の鏡ではなく、あなたの内側がどのような状態かを映す鏡です。あなたの本当の霊的な状態を映します。そして、ヤコブはただ鏡の中をのぞくだけではなく、自分がどのような状態であったかを見て、鏡の前から去ってしまうと、それを忘れ、それについて何もしないのだと、私たちに警告



しています。しかし、もし私たちが鏡として神のこぼれをじっくりのぞき込むなら、その鏡は、私たちの内側の本当の状態を示してくれるとヤコブは言っています。

私はよく、集会でメッセージをし、実際に聖書を掲げて、私はみなさんに鏡を掲げていますと言います。私はあなた自身について話すつもりなのではありません。ただ、鏡をのぞいて、鏡があなたに語ることを理解してください。私が悪霊からの解放のメッセージをしているとき、時間がたつにつれて、人々は不安になりますので、私は、「大丈夫です。落ち着いてください。」と言います。私は、講壇から飛び降りて、あなたの眉間に指をあてて、あなたには悪霊がいると言いません。それは私のやり方ではありません。私はただ、鏡を掲げ、あなたが自分自身を見るようにさせます。そのあと、鏡があなたに示したことについてどう行動するかはあなたの決断次第です。

鏡を見ることは、私たちの霊的成長と繁栄のために非常に重要です。Ⅱコリント 3:18 で、パウロはとても美しいことを言っています。

「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」

さて、これはすべて現在進行形です。私たちが鏡を見続けている間、鏡に現わされている神の栄光を見続けるのです。そして、私たちが見ているとき、聖霊は私たちが見ている栄光から栄光のものに似せて、私たちを変えてくれます。それは素晴らしいですが、私たちが鏡を見ている間だけしか作用しません。あなたが鏡から目を離すと、聖霊はもう働きません。ですから、神があなたにしようとしていることを理解するために、神のこぼれである鏡を見続けなければなりません。そして、見れば見るほど、あなたはさらに栄光に満ちていきます。それは静止していません。パウロは、栄光から栄光へと言っています。あなたは、神がキリストにあってそうあってほしいと願うものを垣間見、あなたは素晴らしいと思うでしょう。そして、次にあなたが見るとき、それは単に最初の一步だけであったこと、はるかに多くのものがやって来ることをあなたに示して下さいます。しかし、これをよく理解してください。聖霊は、あなたが鏡を見ない限り、働くことができません。あなたが鏡から目を離すと、聖霊はあなたの内側で働くのをやめます。ですから、あなたが変えられたいなら、鏡を見る時間を取り、あなたがそうしているとき、聖霊はあなたを変えて下さることに忠実にいて下さいます。

このように、<sup>こんにち</sup>今日の世界で私が発見したことは、大半の人が非常に低いセルフイメージを持っている、ということです。その人たちは、自分自身を良いものとみなしていません。そして、残念なことに、これはクリスチャンの多くにも当てはまるのです。おそらく現在、他の問題よりも、低いセルフイメージで苦しんでいるクリスチャンが一番多いのではないのでしょうか。本当の聖書的解決は、鏡を見続けることであると信じます。なぜなら、鏡はまずあなたがどのようなかたちを映すとき、それはショックなものです。しかし、見続けていると、神があなたにして下さるものを鏡は映し出し始めます。そして、あなたが神の目にどれほど高価であるかを明らかにしてくれます。

私たちが聖書にさらに多くの時間をとるなら、私たちは自分が劣っているとか、価値がないとかと考えることは全くできません。私はこの方法で多くの人々を助けてきました。私が人々にこのように言います。聞いてください。人々は価値あるものには、お金を出すでしょう。たとえば、あなたが自分の家を売りたいと思っていて、不動産屋は 2 億円以上

の価値があると言います。しかし、誰も1億2千万円以上は支払おうとしないので、その家の本当の価値は2億ではなく、1億2千万円となります。物の価値は、人々がそれに支払う代金です。では、あなたの価値はどうですか。あなたは自分の価値をどのように見つけますか。神があなたのために支払うものを見出すことによってです。そして、神は宇宙で最も価値あるもの、イエスの血であなたを買ってくださいました。ですから、それがあなたの本当の価値で、神があなたのために支払いたいものです。お分かりですか。人々があなたに劣等感を与えるようにさせないでください。あなた自身を他の人々によって評価しないでください。いかなる否定的ないやみのようなことばに耳を貸さないでください。ただこう言ってください。私が多くの人々に、教えてきたものです。「私は神の目には、無限に価値あるものだ。」と。なぜなら、神は宇宙で最も高価なイエスの血で私を買ってくださいましたからです。そのように言いましょ。私のあとについて行ってください。

「私は神の目には、無限に価値あるものです。神は宇宙で最も高価なイエスの血で私を買ってくださいましたからです。そして、それが、私がどれほど価値あるかということです。」

そして、私へのあらゆる非難いやみで邪魔するな、私は自分の価値を知っているのだから、と悪魔に言ってやってください。しかし、聖書に時間を取らない限り、あなたはその価値を知ることはありません。神があなた自身と、あなたへの神の愛について何と言っているかに耳を傾けるときにのみ、あなたは低い自己評価の問題から抜け出せるのです。ですから、鏡の前で時間を取ってください。

女性のほとんどが、毎日少なくとも数回、鏡の前に立つでしょう。私は9人の養女を育てたので、女の子たちが鏡の前で過ごす時間について私は経験的によく知っています。あなたは神の鏡の前でどのくらい時間を過ごしますか。外見にこだわらなくてもいいと言っているではありません。身だしなみは必要だと思います。しかし、あなたは永遠のものに対してどのくらいの時間を費やしていますか。外側の美しさはやがて消え去りますが、あなたの内側のもの、あなたにあるものは永遠のものです。それは、神の目にあなた自身を美しくするために時間を費やす価値のあるものです。

花婿と花嫁の対話の美しい表現が雅歌にあります。それはまた、花婿としてのイエスがご自身の教会にどのように語っているかという描写です。その中の一節で、花婿は、あなたは美しい、わが愛する者、あなたには何の汚れもないと言っています。それが、イエスの血が私たちにしてくださいましたこと、神のことばが私たちにしてくださいましたことのゆえに、イエスが私たちに語っていることなのです。私たちは劣等感を持っているかもしれません。あまり価値がないと思っているかもしれません。しかし、私たちが鏡の前で時間を過ごすことができるなら、神が私たちに、あなたのすべては美しく、何の汚れもないと言っていることを見出すのです。鏡の前で時間を過ごすことには価値があります。

そして、ヨハネ14章の1つの聖句から、神のことばの効果についても教えをまとめたいと思います。ヨハネ14:23です。これは聖書の中で最も驚くべき聖句であると思います。私は人々に、もし、聖書が言っていることに一度も驚いたことがないなら、神が何を言っているのかあなたはちゃんと聞いたことがないのです。なぜなら、聖書は驚くべき本だからです。イエスは弟子たちにこう言っています。

「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。」

イエスを愛しているという証拠は何ですか。イエスのことばを守ることです。それは、教会に行くことではなく、教団教派のレベルでもありません。イエスのことばを守ることです。それが私たちの愛のあかしです。それに基づいてイエスは言っています。

「そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。」

何という驚くべきことでしょうか。聖書が神を複数形で用いている箇所は非常に少ないのです。わずかです。創世記で主が、「人はわれわれのひとりようになり…」と言ったとあります。また、他の箇所もありますが、とても少ないのです。しかし、ここでイエスは、ご自身をわたしと言っているのではなく、父なる神を言っているのではなく、わたしたち、つまり父と子が、その人のところに来て、その人とともに住むと言っているのです。本当に驚くべきことばです。全能の神、宇宙の創り主、父と御子が弱く価値のない人間の存在である私たちのところに来て、ともに住みたいのです。驚きです。しかし、条件があります。神のことばを守ることです。神のことばを聞き、それを行ない、適用し、それに生きる。その基盤があつて、私たち一人一人は、全能の神の住まいとなることができるのです。

聖書について素晴らしいことの一つは、福音の本当の目的は、私たちを天に行かせることではなく、天を私たちのところに来させることです。聖書の最後の章には、私たちがみな天に昇るとあるのではなく、新しいエルサレムが地上に降りて来るとあります。そして、神の幕屋は人とともにあると言っています。これは、私たちの頭では完全に理解することは不可能です。神は、私たちとともに住みたいのです。私たちがどのような被造物であるかと考えるとき、私は驚かされますが、聖書のメッセージは一貫しています。神は、あなた方が私のことばを守るなら、私たち(父と子)はあなたのところに来て、あなたとともに住むと言っています。

締めくくりとして、少し時間を取り、神のことばをどのように受け取るかについていくつかの提案をしたいと思います。私は神のことばが何をしてくださるかについて、たくさんある中からいくつかをお話ししました。ですから、少し時間を取って、それをどのように受け取るかをお話ししましょう。イザヤ書の最後の章、66章で始めたいと思います。最初の2節です。これは、神が私たちとともに住みたいと言っていることと一致しています。

「主はこう仰せられる。『天はわたしの王座、地はわたしの足台。わたしのために、あなたがたの建てる家は、いったいどこにあるのか。わたしのいこいの場は、いったいどこにあるのか。』」

あなたは、私のためにどのような建物を建てようとしているのか。どのような宮か、どのような城か。それに私は心動かされないと、神は言われています。

「『これらすべては、わたしの手が造ったもの、これらすべてはわたしのものだ。——主の御告げ——』」

そして、メッセージが来ます。

「『わたしが目を留める者は、へりくだって心砕かれ、わたしのことばにおののく者だ。』」

ここに3つの条件があります。へりくだる心。イエスは、「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。」と言いました。それは、臆病や気の弱いという意味ではなく、私たちが自分はどうほど貧しいか、どうほど神を必要としているかを理解するということです。

そして、「心砕かれ」とあります。それは、自分が神を悲しませ、私たちの人生で神を避けまた、神が私たちのうちに住んでくださることを不可能にしてきた、あらゆる行いやことばすべてを悔やむことです。

そして、これは驚きですが、「私のことばにおののく者」と言っています。神のことばを受けつるための条件の一つは、神のことばにおののく者です。おののくとは、恐れ、畏怖を表わします。以前、その理由についてお話したことがあると思います。もし、父なる神、御子なる神が5分以内にあなたのところにやって来ると聞かされたら、みなさんはどうかわかりませんが、私はおののきます。私は、心の準備ができていない、と思うでしょう。父とイエス様は何をするのだろう、何を期待しているのだろう。哀れな土くれの私たちが、父なる神と御子にどうやって向き合えるのだろう。しかし、イエスは、「あなたがたがわたしのことばを守るなら、私の父とわたしは来て、あなたと一緒に住む」と言われたのです。ですから、神がなぜ私たちに神のことばにおののくことを望んでおられるか、私は理解できます。それは、神が私たちの人生の中に人格として来られるからです。

あなたの神への姿勢がどのようなものであるかを知りたいなら、神のことばに対するあなたの姿勢を知ることだと、私は何度も語ってきました。それが、あなたの神に対する姿勢、見方です。あなたは、神のことばを愛する以上に神を愛することはありません。神のことばに従う以上に神に従うことはありません。神のことばのために持つ場所以上に、神のためにあなたの人生を捧げることはありません。ですから、あなたにとって神がどれほどの意味があるのかを知りたいなら、神のことばがあなたにとってどれほどの意味を持っているかを見出してください。それが答えです。神のことばは、神が私たちのうちに入ってくださいる方法だからです。

神は、私たちが恐れさせたいのではなく、尊ぶことを望まれていると私は思います。畏敬の思いを持ってほしいのだと信じます。詳しく話す時間はありませんが、聖書で頻繁に使われている表現に、「主を恐れよ。」というのがあります。それは、罰を受けるのを恐れるという意味ではなく、大いなる畏敬の思いを持つという意味です。特に、箴言や詩篇を開いてみると、主を恐れることについて聖書は、主を恐れること以上に素晴らしい祝福の約束をもたらすものはないと言っています。聖書は、主を恐れるなら、いのちに至る。満ち足りて住み、わざわざに会わない(箴言 19:23)と言っています。あなたが同意し、また他の箇所を見つけて、聖書が主を恐れることについて何と言っているかを探る時間を取ってください。

さて、今から教えたいこと、次の条件はまさに、へりくだることと神を畏れる密接に関連しています。詩篇 25 篇は私の大好きな詩篇で、神が骨折ってまで教えようとする人々について語っています。あなたは、どんな聖書学校や神学校にでも入学できますが、それは必ずしも、神があなたを生徒として受け入れるということを意味していません。お分かりですか。神はご自身の生徒を、知的な学識やその人が持っている学位などによってではなく、人格によって選ばれます。そして、詩篇 25 篇は、神がご自身の生徒として受け入れる人に求めておられるものについて、私たちに教えています。詩篇 25:8-9 です。

「主は、いつくしみ深く、正しくられる。それゆえ、罪人に道を教えられる。主は貧しい者を公義に導き、貧しい者にご自身の道を教えられる。」

ここでの条件は何ですか。貧しい者、口語訳ではへりくだる者です。古い英語訳では、従順な者で、私はある意味従順という言葉の方がいいのではないかと思います。

そして、同じく25篇の12節。

「主を恐れる人は、だれか。主はその人に選ぶべき道を教えられる。」

神があなたに教えてくださるための条件は何ですか。そう、主を恐れる人です。14節。

「主はご自身を恐れる者と親しくされ、ご自身の契約を彼らにお知らせになる。」

親しくされ、という言葉は、主の奥義の助言を意味します。神はどのような人々にご自身の個人的な計画を分かち合いますか。そう、神を恐れる人にです。ですから、これは、私たちが養う必要のある姿勢です。

そして、聖書の別の箇所、私たちは主を恐れることを選ばなければならないと言っています。私たちがそれを選ばなければ、主を恐れる姿勢を持つことができません。箴言1章で、主を恐れることを選ばなかった人に、悲劇がやって来ることが書かれています。

そして、ヤコブ 1:21 で再び、とても似たことが書かれています。事実、私はそれらを教えるたびに、同じことがどれほど強調されているかに驚きます。ヤコブ 1:21 です。

「ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り……」

これが、最初の条件で、すべての汚れや神に受け入れられない悪を捨て去ることです。そして、基本的にそれを表わす一語があります。何でしょうか。そう、悔い改めです。悔い改めとは、神に喜ばれない、受け入れられないあらゆるものに背を向けることという意味です。それで、ヤコブは言っています。

「すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。」

ですから、みことばをどのように受け取るのですか。そう、すなおに、です。それらはみな同じことを言っています。

そして、あなたは、みことばが言っているようにふるまう準備ができていなければなりません。ヨハネ 7:17 でイエスは言っています。

「だれでも神のみこころを行おうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語

っているのがわかります。」

イエスは、単に知識に興味があるだけの者には、神は会ってくださらないと言っています。しかし、あなたが神のみこころを行ないたいと願うなら、神はあなたに真理を示してくださるのです。

そして最後に、みなさん全員にお勧めとして、詩篇119:11をもう一度開きたいと思います。ダビデは言いました。

「あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。」

あなたが、純粹に神の祝福と繁栄を望むなら、あなたの心に神のことばをたくわえる必要があることをお伝えします。それをする一つの具体的な方法は、聖句暗記だと思います。聖句暗記を習慣づけることは極めて重要です。聖書は神のことばを思いめぐらす人々について語っています。しかし、神のことばをたくわえていなければ、思いめぐらすことはできません。思いめぐらすためには、暗記しなければならないのです。

妻と私がカール・ロレンスという著者の『中国の教会』という本を読んだことについて分かち合いたいと思います。読んだことがある方はいらっしゃるでしょうか。それは素晴らしい本です。あなたが中国人で、まだ読んだことがないなら、読むべきだと思います。シンガポールにいる中国人について、私にとって印象深いことの一つは、率直に言うと、彼らは中国本土にいる中国人についてあまり気にしないということです。驚きです。しかし、とにかく、この本の中でこの人は、文化大革命のとき—文化大革命をご存知ですか。クリスチャンが無慈悲に迫害されたとき、生き残ったのは、聖句を暗記していた人たちだけだと書いています。残りの人たちはみな、自殺を図ったり、気が狂ったり、仲間の信者たちを裏切ったりしました。ですから、神のことばを暗記することに何かがあります。ほかには代えられない内側の強さと安定を与えます。そして、私がお勧めするのは、みことばを覚えることに献身してください。若い人もたくさんいるでしょう。その人たちは、それを用いることを選び取るなら、記憶力は素晴らしいでしょう。もし、そうしないなら、あなたは計り知れなく価値のあるものを自ら奪うことになるのです。

妻と私がどれくらいの聖句を暗記しているかはわかりません。少なくとも、200はあるはずです。私たちは、人にひけらかすために暗記するのではなく、自分に必要だからです。私たちは絶えず霊的戦いの中に置かれています。常に、サタンの要塞を攻撃しています。ですから、もし心の内側に神のことばを持っていないなら、私たちは生き残ることができません。それを暗記し、信じ、告白するのです。

それが、神にある繁栄を願う人々への締めくくりのお勧めです。あなたがどの聖句を暗記する必要があるかを聖霊に聞いてください。なぜなら、それは一人ひとり違っているかもしれないからです。主の祝福をお祈りします。